

一般会計・人件費など9千7百万円を減額

6月議会では補正予算など可決した他、地方交付税を単に面積と人口で配分するという『新型交付税』の導入に反対する意見書や民営化され今後さらに大幅な縮小が懸念される集配郵便局の再編に反対する意見書などを採択し閉会しました。

下水道の負担金について

市内でも下水道が普及してきました。下水道にも種類があり三刀屋・木次は公共下水、大東町では特定環境保全公共下水、掛合町は農業集落排水事業、吉田町では町部は農集事業、周辺地域は全て合併処理浄化槽設置事業です。これまで使用料や受益者負担金が各旧町村でまちまちでした。公共下水は管渠整備費の5%相当額を受益者負担でお願いすることとし、これまで木次・三刀屋では5%を各家の面積に応じて負担額を決めていました。今回大東町では面積ではなく戸数で割った額として排水設備一箇所当たり「十三万円」に決定されました。加茂公共下水も同額です。吉田町は集落排水、合併浄化槽とも「十万円」です。今後、使用料、負担金とも審議会で検討され市内全域統一されることとなります。ご承知いただき、ご理解を願います。

高速道路 尾道松江線 木次で起工式 鉄入れ

今年度予算総額84億円。昨年度比約2倍の予算配分で、いよいよ本格的に着工される運びとなりました。広島県境にまたがる毛無山トンネルは約5キロメートルの長大トンネルで完成まで6〜7年要するといわれています。来年度着手予定と聞いていますが一日でも早く着工してほしいと思います。

高速道特別委員会では5月17日、松江市長と松江国道事務所に対し一層の要望活動の展開と早期完成を申し入れました。



県知事はじめ関係者多数で鉄入れ式。榎の屋神楽の子供たちが代表も一緒に鉄入れをしました。良い記念です。

鉄の歴史村のお宝 窪田蔵郎 文庫



「全部あげます・・・」 30年間わたって蒐集された鉄関係の貴重な資料と窪田蔵郎先生

窪田蔵郎先生。日本の鉄研究の第一人者。一九二六年、神奈川県小田原市生まれ。昭和二年、日本鉄鋼協会の就職。鉄の歴史に興味を持ち始め、古物の「鉄滓(てつさい)」コレクションを開始、これが動く鉄一筋に研究を続けられた。昭和四年、菅谷地区で行われた「たたら復元操業」にも鉄鋼協会の職員として参加。著書多数。中でも代表作「鉄の考古学」は鉄研究者のバイブルとも言われ、司馬遼太郎氏の「街道を往く(砂鉄の道編)」の中でも多数引用されている。近著では「だれにでも分かる鉄の本」・「日本の鉄」を執筆されている。先生の書齋で卒業論文を書き上げた学生も多数あり、先生が熱い思いをこめて書かれた膨大な鉄関係の蔵入から膨大な鉄関係の蔵

市の花・市の木を公募

市民の皆様から愛され親しまれる『市の花』と『市の木』を選定することになりました。参考資料とするため公募します。選定委員会で検討し答申に基づき12月議会で決定されます。

『桜』は 花か木か？議論のあるところ。含めて委員会で検討されます。是非ご応募を。

編集後記 少しご無沙汰になってしまいました。ご意見をお聞かせください。季節の変わり目。お大事に。

書、諸史資料を全て「財団法人・鉄の歴史村地域振興事業団」にご寄付いただきました。日本の「鉄関係の資料」が全てそろっているといっても過言ではありません。山深く、生活の厳しさと鉄の口マンが混在した山村のたまたま高殿を中心として展開されてきた「たたら製鉄」。一万トンに足らないわづかな量でも一世前の日本の鉄鋼需要の全てをまかなっていた。窪田先生の著書から引用) 雲南市にとっても大きな宝です。是非ご覧いただきたい。鉄の「口マン」に浸ってみませんか。閲覧自由。ただし持ち出しはできません。お問い合わせは 電話0854・74・0311 (財)鉄の歴史村 まで